

LECCIÓN DE ESPAÑOL

スペイン語講座(III) gustar型動詞について

前回の号では目的の代名詞に焦点を当てましたが、今回はこの目的の代名詞を使った、重要でよく使う構文を扱います。

Me gusta la música. (私は音楽が好きだ。)

この構文を習ったときに、何となくわかったようなわからないような気分になりませんでしたか。「私」と「音楽」の関係ですが、「私が音楽を好む」つまり、「私」→「音楽」のはずなのに、なぜかスペイン語では主語が「音楽」で「私」は目的語になっています(つまり「音楽」→「私」)。でも、少し考えてみてください。「好き」とか「嫌い」とかといった感情は自然に湧いてくるものではないでしょうか。つまり、私がこの曲を好きになろう、好きになろう、好きになろう…、と意識してその結果好きになるのではなく、ふと聞こえてきた曲が、「あれっ、何かいい感じだ」と感じるのがむしろ普通ではないでしょうか。

このことは好きになる対象が人の場合を考えればもっとよく理解できるかも知れません。

Me gustas tú. (君が好きだ。)

「私」が「君」を好きになろうと自分で意識したわけではないでしょう。初めて出会った瞬間にビビッと来ることもあるわけで、むしろ好きになったのは「君」のせいだ、とも言えます。逆に自分がかっきり主体となった表現は **querer** で表せます。

つまり、

Me gustas tú. (私は君が好きだ。)

Yo te quiero. (私は君を愛している。)

ちなみに、**gustar** は中世ではもともと「～を味わう」でした。それが、様々な段階を経て、現代語では「～が好きだ」という意味になりました。そしてその過程で元々《人》が主語で《対象》が目的語だったものが逆になったようです。名詞形の **el gusto** には今でも「好み」、「喜び」などとともに「味」の意味も残っています。

次に痛みを表す表現を見てみましょう。

Me duele la cabeza. (私は頭が痛い。)

この場合、「私」は何の意図も持っていないし、何の行動も起こしていません。頭痛がするのは嫌なことだけど、突然「頭」が「私」に対して痛んでくるのですよね。「頭が私に痛む」つまり「私は頭が痛い」です。

このように「自分」が意図しない好悪や苦痛を表す表現はスペイン語ではこの文型(間接目的語+動詞+主語)になることが多いのです。これらを「向かってくる」動詞と呼んでもいいかもしれませんね。更に例を見ていきましょう。

- **Ese compañero de clase no me cae bien.**

(私はそのクラスメートとは気が合わない。)

やはり、原因は自分じゃなくて相手です(と思いたいですよね)。

- **No me salió muy bien el examen.**

(試験はあまりうまく行かなかった。)

試験勉強を十分にしなかったのは自分のせいなんですけど…

次の2つの構文を比べてみましょう。

Yo creo que ella tiene razón.

(私は彼女が正しいと思う。)

Me parece que ella tiene razón.

(私には彼女が正しいと思われる。)

やはり、「私」がはっきりと意見を主張する場合、**yo creo que...** で、控えめに言うときは **me parece que...** が適しているようですね。

更に例文を見ていきましょう。

- **Vamos a vernos mañana y, ¿a qué hora te conviene?**

(明日会おう。何時が君には都合がよい?)

- **¿Con quién estuviste anoche?**

— **¡Qué te importa!**

(昨夜誰といたの? — お前の知ったことか!)

- **Quiero el menú del día.**

— **Lo siento. Ya no me queda.**

(本日の定食ください。)

すみませんが、もう残っていません。)

- **¿A quién le toca (el turno)? — Te toca a ti.**

(誰の番ですか? — 君の番だよ。)

- **Se me rompió el plato.**

(そのお皿が割れちゃった。)

最後の例は、**romper**「割る」に再帰の **se** を付けたもので「受身」です。つまり、**se rompió** は「割れる」。そして主語の **el plato** 「お皿」が私に向かってきます。お皿が私に対して割れちゃった。「私」はむしろ被害者というわけです。本当は自分の不注意で落としちゃったのですが、責任を軽くする便利な表現ですね。

スペイン語は本当に奥が深いですね。時間が来たようなので今回はこの辺で。¡Hasta la vista!



仲井邦佳

なかいくによし/Kuniyoshi Nakai

- 立命館大学産業社会学部教授・スペイン語部会長。
- 京都イスパニア学研究会会長。
- 専門はスペイン語学。
- 著書に『コミュニケーションのためのスペイン語』(第三書房), 『中級スペイン語—文法と演習—』(同学社)などがある。